

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(新津小・新津中)学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- 協議会では、メンバーが、それぞれの立場から、現実性のある提案をされたので、広い視野のもと、改善策を考えることができると思われる。今後は更に、具体的な学校支援活動について、より具体的、計画性のあるものにすべく、充実させるべきと考える。
- 特に、学校への支援活動について、小学校と中学校で分かれて熟議をした結果を伝えて終わりにするのではなく、その結果に対して相互に質問したり、アイデアを出すなどの助言をしたりすることで、異なる視座からの示唆を得ることにつながると思う。そうすることで、学校支援コーディネーターの具体的な活用の案も出てくる可能性があると思うため、そのような時間を確保していきたい。

＜評価項目1＞学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・ 小中それぞれの基本方針を、校長先生からの生の言葉で聞くことにより、学校が困っていることに対する手助けの方法や地域の方々との関わり方について熟議をすることにより、理想と現実との違いはあるが、一步前進することができたと思う。
- ・ 小学校においては、子供たちが夢を持てるように、そして夢に向かえるように、「生きる力」の育成などのキャリア教育推進を、中学校においては、LL学習を軸とした教育活動、SDGs推進活動、いのちの教育を特色とした教育活動を、熟議を通して理解することができた。

＜評価項目2＞承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・ こども家庭庁創設に伴い、浜松市にもこども家庭センターができ、「こどもまん中社会」へ向けて、世の中が動いていることを理解した。部活動の地域移行等の現場の先生方の働き方改革においては、地域との協力連携が早急な課題である。「地域の子は地域で育てる」をテーマに更なる熟議が必要であると感じた。
- ・ 外部からの講師だけでなく、地元の方の話も加えたり、PTA活動やもりのこサポーターによる愛校活動をしたりして、気付き力や主体的に行動する力が高まるように支援していくとよいと思った。

＜評価項目3＞協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・ 十分とは言えないが、地域の人と関わる際に、学校運営の内容について発信したり、協力者を得るようにコミュニケーションをしたりするように意識が変わった。
- ・ 情報発信としては、学校のホームページに掲載しているが、まだまだ足りないと感じた。それぞれの立場で動くことや、子育てOBの皆さんの力をお借りする等、さらに工夫が必要であると感じた。

＜評価項目4＞今年度の取り組みの評価を踏まえた来年度の目標(取り組みの重点)

- ・ 地域で育てる新津の子であるべく、地域全体でどのように関わりつながっていくかを方向付けていきたい。また、地域でできることの考えに偏りがちなため、家庭や学校でできることについても熟議をしていきたい。
- ・ 中学校の部活動の地域移行について、令和8年度の完全移行を節目の一つに、中学生が楽しくスポーツができる基盤づくりに協力したい。
- ・ 小学校では、「夢講話」という新たな取り組みがスタートした。このような具体的な取り組みが増えるようにするために支援できることを熟議したい。